

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

82春闘 4.13スト中止 全力で15-16スト貫徹へ

大巾賃上げ獲得・生活防衛、第二マル生攻撃 粉碎、国鉄労働運動解体攻撃を粉碎しよう!

82春闘決戦段階の4・13交通ストは、私鉄ストが中止になる情勢の中で十三日午前一時中止となった。今日の「行革」、第二臨調、自民党・三塚小委員会を急先鋒とする「国鉄労働者」国賊」キャンペーンのなかで、82春闘は単に大巾賃上げ獲得だけでなく、未曾有の国鉄労働運動解体攻撃と対決し粉碎する、極めて重要な闘いである。国労・動労「本部」が「反国鉄キャンペーン」に屈し、ストなし春闘策動に傾斜する情勢に抗して、全ての国鉄労働者は、4・15、16ストライキ貫徹をもって情勢を切り拓き、大巾賃上げ獲得・生活防衛、第二マル生攻撃粉碎、国鉄労働運動解体攻撃を粉碎していかうではないか。

国鉄労働運動解体攻撃との対決をかけた82春闘の重大性

82春闘がストなしで終るのか、それともストを貫徹して新たな情勢を切り拓くのか。今後の国鉄労働運動を大きく左右する重大な決戦段階をむかえている。

仙台の地下鉄建設にからんで、「黒いウワサ」の中心人物・三塚博を委員長とする自民党・国鉄再建小委員会は、82春闘決戦段階をむかえた今日、極めて反動的な「第一次国鉄再建案」なるものを提示せんとしている。そのなかみは、
①国鉄労働者のストに刑事罰の法定化、②現場協議制度の廃止、③二億損賠訴訟の結審、④管理体制の強化、⑤「ヤミ協定、悪慣行」剥奪など、十四項目にわたる一切の慣行、既得権の剥奪と国鉄労働運動解体攻撃である。

この反動的な攻撃が、82春闘の最只中でなされるようとしているのである。こうした「行革」、第二臨調、自民党の反動的な攻撃を粉碎するために中止されたとはいえ、4・13ストへ決起した国鉄労働者の力を結集して、4・15、16ストを、断固貫徹しようではないか。

82春闘勝利スト前夜集會に六五〇名結集

「82春闘勝利スト前夜集會」は、4月12日、十七時三十分、津田沼電車区玄関前で開催された。集會は全支部から六五〇名の組合員が大結集するなか、片岡教官部長の司会で始まった。

本部を代表して関川委員長が、「労働者の怒りをかけ、4・13ストと4・15、16決戦ストを貫徹しよう」との決意を表明した後、社会党総支部・木村さんの激励挨拶、布施交渉部長から中央交渉経過が報告された。

つづいて吉岡組織部長から「政府の」ストを中止すれば有額回答」とか「国鉄への格差回答」を

怒りをもって弾劾し、今こそ本来の姿にもどりに闘いで要求をかちとろう。今日、動労「本部」革マルが当局の尖兵となって「働こう運動」を推進し、国労にも押しつけようとしている。3

・6集會、3・28集會に見られるように、全国の国鉄労働者は怒りをもって今決起してきている。これは81・3闘争の成果であり、だからこそ、権力は新たな攻撃に出ている。『3・13ゲリラ事件』を口実とした不当家宅捜索をはじめ80年七月五日『佐倉支部』小川建二に対する糾弾行動に対し「監禁強要」なるものをデッチ上げ、任意出頭をかけたことに表われている。われわれはデッチ上げ「千葉地本」解体で答えてやろうではないか。82春闘勝利を通して、政府の反動攻撃を粉碎し、新たな労働運動を創出しよう」との闘争方針が提起された。

最後にスト拠点支部を代表し、山下(津田沼)日暮(成田)、鶴岡(勝浦)各支部長・副支部長から決意表明を受けた後、4月1日国鉄に入社し、動労千葉に加入した二十一名の新組合員が並び、自己紹介を行ない、圧倒的な歓迎を受け、シユプレヒコール、構内デモを行なつて集會を終了した。

いざ、4・15、16春闘決戦ストへ万全の態勢をうち固めよう!



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!